

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

④ 公開特許公報 (A)

昭57-135567

⑤ Int. Cl.<sup>3</sup>  
H 04 M 11/06  
H 04 J 3/00  
15/00

識別記号

庁内整理番号  
6372-5K  
6651-5K  
6914-5K

⑥ 公開 昭和57年(1982) 8月21日

発明の数 6  
審査請求 未請求

(全 8 頁)

⑦ 音声情報とデータ情報を同時伝送可能な方法及び方式

⑧ 特 願 昭57-128

⑨ 出 願 昭57(1982) 1月 5 日

優先権主張 ⑩ 1981年 1月 5日 ⑪ 米国(US)  
⑫ 222702

⑬ 発 明 者 ビシユワズ・アール・ゴッドボ  
ル

⑭ 出 願 人 アメリカ合衆国カリフォルニア  
95117サン・ノゼ・サニーレイ  
ク・コート3573  
アメリカン・マイクロシステム  
ズ・インコーポレイテッド  
アメリカ合衆国カリフォルニア  
95051サンタ・クララ・ホーム  
ステッド・ロード3800

⑮ 代 理 人 弁理士 小橋一男 外 1名

明 細 書

1. 発明の名称

音声情報とデータ情報を同時伝送可能な方法及び方式

2. 特許請求の範囲

1. 単一チャンネルで音声信号及びデータ情報を伝送する方法に於いて、

(a) 伝送すべきデータがない場合には音声信号を第1サンプリング速度でサンプリングし、

(b) 伝送すべきデータがある場合には、音声信号を前記第1サンプリング速度よりも遅い第2サンプリング速度でサンプリングし、且つデータ情報を前記第1サンプリング速度よりも遅い第3サンプリング速度でサンプリングする、

ことを特徴とする方法。

2. 上記第1項に於いて、伝送すべきデータが存在する場合の前記音声信号と前記データ情報との合成サンプリング速度が伝送すべきデータがない

場合の前記音声信号のサンプリング速度と等しいことを特徴とする方法。

3. 単一チャンネルを使用して音声信号とデータ情報とを伝送する方法に於いて、

(a) 音声情報のみを伝送する期間に於いて前記音声信号を第1サンプリング速度でパルス符号変調して一連の音声フレームとし、前記音声フレームは複数個の音声バイトを有している、

(b) 音声情報とデータ情報の両方を伝送する場合に前記音声信号を第2サンプリング速度でパルス符号変調して一連の音声フレームとし、前記各音声フレームは複数個の音声バイトを有している、

(c) 音声情報とデータ情報の両方を伝送すべき場合に1番以上のデータバイトと1個以上の音声バイトとを結合させて音声・データフレームを形成し、その場合に音声バイトとデータバイトの両方を有する一連の音声・データフレームを形成す

る、

- (d) 音声情報のみを伝送すべき場合には前記音声フレームを受信局に伝送し、
- (e) 音声情報とデータ情報の両方を伝送すべき場合には前記音声・データフレームを受信局に伝送し、
- (f) 前記受信局に於いて前記各音声・データフレーム内の前記音声バイトと前記データバイトとを分離し、
- (g) 前記受信局に於いて前記音声バイトをパルス符号変調させてアナログ音声信号とする。

ことを特徴とする方法。

4. 単一チャンネルで音声信号とデータ情報とを伝送する方式に於いて、伝送すべき情報がない場合に音声信号を第1サンプリング速度でサンプリングする手段と、伝送すべきデータが存在する場合に音声情報を前記第1サンプリング速度よりも遅い第2サンプリング速度でサンプリングし且つデータ情報を前記第1サンプリング速度よりも遅い第3

サンプリング速度でサンプリングする手段とを有することを特徴とする方式。

5. 上記第4項に於いて、伝送すべきデータがある場合の前記音声信号と前記データ情報の結合サンプリング速度が伝送すべきデータがない場合の前記音声信号のサンプリング速度と等しいことを特徴とする方式。

6. 単一の伝送チャンネルによってアナログ情報とデジタル情報とを同時に伝送する方式に於いて、アナログ情報のみを伝送すべき場合には第1サンプリング速度で動作し且つアナログ情報とデジタル情報の両方を伝送すべき場合には第2サンプリング速度で動作するアナログ・デジタル変換器を具備しており、前記アナログ・デジタル変換器はアナログ情報を受信する為の入力手段を有すると共に前記アナログ情報のデジタル表示である出力を出力する出力手段を有し、前記デジタル表示は各々が1個以上のビットを有する一連の各ワードを有しており、1個以上の音声ワードを複数個格納する第1バッファメモリを具備し、1個

以上のデータワードの複数個格納する第2バッファメモリを具備し、各データワードは1個以上のビットを有しており、前記第1バッファメモリ内に格納された前記複数個の音声ワードを前記第2バッファメモリ内に格納された前記複数個のデータワードと合体させる手段を具備し、前記合体された音声及びデータワードを伝送する手段を具備することを特徴とする方式。

7. 各ワードが1個以上のビットを有する一連のワードをパルス符号変調して伝送しそれからアナログ情報とデジタル情報とを同時に受信する方式において、前記方式が、前記アナログ情報に対応する前記ワードを第1バッファメモリに格納する手段と、前記デジタル情報に対応する前記ワードに対する出力手段と、前記第1バッファメモリ内に格納された前記ワードをアナログ信号に変換させるデジタル・アナログ変換手段とを具備し、前記デジタル・アナログ変換手段がアナログ情報のみを受信する場合には第1サンプリング速度で動作し、且つアナログ情報とデジタル情報の両方

を受信すべき場合には第2サンプリング速度で動作可能であることを特徴とする方式。

8. アナログ情報とデジタルデータとを同時に伝送可能な方式に於いて、アナログ入力信号を受信する為のアナログ入力端子を具備し、出力端子を有し前記アナログ入力信号をデジタル表示に変換させる為のアナログ・デジタル変換器を具備し、前記アナログ・デジタル変換器はアナログ情報のみを伝送する場合には前記アナログ入力信号を第1サンプリング速度でサンプリングし且つアナログ情報とデジタルデータの両方を同時に伝送する場合には第2サンプリング速度でサンプリングすることが可能であり、伝送チャンネルに接続されたパルス符号変調出力端子を具備し、アナログ情報のみを伝送すべき場合には前記アナログ・デジタル変換器の出力端子を前記パルス符号変調出力端子に接続させる手段を具備し、前記伝送チャンネルに接続されたパルス符号変調入力端子を具備し、入力端子と出力端子とを有するデジタル・アナログ変換器を具備し、前記デジタル・アナログ変換

器は音声情報のみを受信する場合には前記第1サンプリング速度で動作し且つアナログ情報とデジタル情報とを同時に受信する場合には前記第2サンプリング速度で動作することが可能であり、アナログ情報のみを伝送する場合には前記デジタル・アナログ変換器の入力端子を前記パルス符号変調入力端子に接続する手段を具備し、アナログ情報とデジタル情報の両方を伝送する場合には前記アナログ信号の前記デジタル表示を格納する手段を具備し、アナログ情報とデジタルデータの両方が伝送される場合に前記デジタルデータを格納する手段を具備し、アナログ情報とデジタルデータの両方が伝送される場合に前記アナログ信号の前記デジタル表示と前記デジタルデータを前記パルス符号変調出力端子に選択的に出力する手段を具備し、前記パルス符号変調入力端子で受信された前記アナログ情報のデジタル表示と前記デジタルデータとを分離格納する手段を具備し、前記受信したデジタルデータを出力する手段を具備し、前記受信されたアナログ情報のデジタル表示を前記デ

ジタル・アナログ変換器に印加する手段とを具備したことを特徴とする方式。

9. 上記第8項に於いて、アナログ情報のみを伝送するモードからアナログ情報とデジタルデータとを同時に伝送するモード又はその逆に変更することを表わす持ち合せ信号を発生するトーン発生器を前記アナログ入力端子に接続して設け、且つ前記持ち合せ信号に応じて前記デジタル・アナログ変換器のサンプリング速度と前記アナログ・デジタル変換器のサンプリング速度を制御するトーンデコードを前記デジタル・アナログ変換器に接続して設けたことを特徴とする方式。

10. 上記第8項に於いて、アナログ情報のみを伝送するモードからアナログ情報及びデジタルデータを同時に伝送するモードへの切り替え又はその反対の切り替えを表わすデジタル持ち合せ信号を伝送する手段と、前記持ち合せ信号に応じて前記デジタル・アナログ変換器のサンプリング速度と前記アナログ・デジタル変換器のサンプリング速度とを制御する手段とを具備したことを特徴

とする方式。

### 3. 発明の補足説明

本発明は、通信方式に属するものであって、更に詳細には単一のパルス符号変調チャンネル上に音声情報とデータ情報とを伝送することが可能な方式に属するものである。

従来、パルス符号変調(PCM)を使用した方式が使用されている。例えば、電話通信方式はしばしばパルス符号変調を使用しており、アナログの音声信号を一連の二進パルスに変換させている。この様な電話通信方式に於いては一定の標準抽出率(サンプリング速度)が使用されており、通常、8k Hzである。サンプリングした音声信号を8ビットのワードに変換することによって、デジタル化された音声情報はパルス符号変調により64キロビット/秒で伝送される。従来の音声伝送に於いては一定の音声抽出率を使用しており、その理由としては、従来のフィルターはRC回路を使用し所要のフィルター特性を有しているからである。一定の値を有する抵抗及びコンデンサを使用して

いる為に、従来のフィルターの特性は固定されていた。

一方、コンピュータやマイクロプロセッサ等からのデータ通信に於いても一連の二進パルスが使用されている。この場合の通常使用されているデータ伝送率は9.6キロビット/秒である。

音声とデータの両方を伝送する場合の従来の方法に於いては、音声伝送用とデータ伝送用の別々のチャンネルを必要とするか、又は音声とデータの両方を伝送することが可能な増大した帯域幅を有する単一のチャンネルを必要とした。従って、64キロビット/秒の音声伝送を9.6キロビット/秒のデータ伝送と結合させる為には、73.6キロビット/秒を必要可能な伝送チャンネルが必要とされる。多くの場合に、この様な要求は実面的でないか又は不可能なものである。例えば、スタンダードなPCMチャンネル及び回路は64キロビット/秒で動作するように構成されており、これよりも速い情報伝送速度で情報を伝送することは不可能であり、速い速度にしようとする

る場合には受信装置を修正する必要がある。

本発明は以上の点に鑑み成されたものであって、同一のPCM伝送チャンネルを使用して音声情報とデータ情報とを同時に伝送することの可能な方法及び装置を提供することを目的とする。即ち、本発明の独特の構成によれば、64キロビット/秒を搬送可能な単一の音声チャンネルを使用して音声情報、データ情報、又は音声情報とデータ情報との結合情報を搬送することが可能なものである。本発明に於いては、音声情報に関して独特の二重搬出率を使用しており、即ち音声情報のみを伝送する場合には第1搬出率を使用し、一方音声情報とデータ情報の両方を伝送する場合には第1搬出率よりも速い第2搬出率を使用するものである。

本発明の1構成例に於いては、音声情報のみを伝送する場合には8k Hzの搬出率を使用し、64キロビット/秒のバース符号変調された音声信号を供給し、一方、音声情報とデータ情報の結合情報（又は、データ情報のみ）を伝送する場

合には、6、8k Hzの音声情報搬出率を使用するものであり、この場合にはデジタル化された音声信号は54、4キロビット/秒である。この54、4キロビット/秒の音声速度は9、6キロビット/秒の速度を有するデータ情報に加入させることが可能であり、従って、64キロビット/秒の単一のバース符号変調音声チャンネルを使用して音声情報とデータ情報とを同時に伝送させることが可能である。データ伝送を成る期間に於いて音声情報の帯域幅を3、4k Hzから2、9k Hzに減少させたとしても音声情報の質を著しく低下させるものではなく、従って本発明によればスタンダードな64キロビット/秒の電話回線を介して高品質の音声情報とデータ情報の同時的な伝送が可能なのである。

以下添付の図面を参照し本発明の具体実施の態様に付き詳細に説明する。第1図は、データ情報と音声情報とを同時に伝送することが可能なシステム（方式）を示したブロック図である。“音声モード”の期間に於いては、データ情報の

同時的伝送をせずに音声情報のみが伝送される。リード30を介して音声信号がバース符号変調器8に入力される。バース符号変調器8はエンコーダとも呼称され、フィルタ20及びアナログ・デジタル変換器21で構成されている。このようなエンコーダ8として使用可能な装置は例えばアメリカン マイクロシステムズ、インコーポレイテッドから製造販売されている製品番号S3501がある。エンコーダ8からのバース符号変調された出力は出力リード32に供給される。出力リード32はPCMチャンネル（不図示）を介してスイッチング回路に接続されている。スイッチ41及び42を介してエンコーダ8からのバース符号変調された出力は出力リード32に直接供給することが可能である。この場合には音声・データ結合器10内に設けられた種々の構成部品をバイパスする機能を有する。出力リード32はPCM伝送チャンネル（不図示）に接続されている。

音声モード操作の期間中は、受信リード33がスイッチ40およびスイッチ43を介してバース

符号変調デコーダ9に接続される。該デコーダ9はデジタル・アナログ変換器22及びフィルタ23を有している。デコーダ9としては、例えば、アメリカン マイクロシステムズ、インコーポレイテッドから製造販売されている製品番号S3502等が使用可能である。デコーダ9からの出力を適當なトランスデューサ装置（不図示）に供給して、人間が知覚しうる可能出力とすることが可能である。音声モードに於ける音声信号のエンコード操作及びデコード操作に於ける搬出率は好適には8k Hzである。従って、スタンダードな64キロビット/秒のPCMチャンネルを使用して毎秒8,000の8-ビットワードを伝送することが可能である。

公知の方法により局所的なスイッチング回路網を使用して同期信号が発生され、入力線31を介して音声・データ結合器10に入力される。好適実施形態に於いては、この同期信号は400 Hzの周波数を有し15%の歪率係数を有するものである。しかしながら、特定のシステム性能に於ける

る要求に応じてその他の同期信号を使用可能なことはいうまでもない。この同期信号は結合器10のフェーズロックループ1に供給され、該ループは供給された同期信号によってロックされ、音声・データ結合器10、エンコーダ8、デコーダ9等を制御する為の種々の基準クロック信号を供給する。

“音声・データモード”の期間に於いては、音声情報とデータ情報の両方が同時に伝送される。この場合に、スイッチ40、41、42、43は開であり、従ってエンコーダ8とスイッチインタフェースリード32との間の回路及びスイッチインタフェースリード33とデコーダ9との間の回路には種々のシステム要素が介在されることになる。音声・データ信号を受信する場合には、PCM信号はスイッチインタフェースリード33を介して受信される。即ち、シリアルデータが直列並列変換レジスタ12に供給され、該レジスタは8ビット幅の出力を供給する。この様な直列並列変換レジスタとしては、例えばテキサス

インストルメント、インコーポレイテッドから製造販売されている製品番号SN 74164の装置が使用可能である。直列並列変換レジスタ12からのこのパラレル出力信号はデマルチプレクサ18に供給される。デマルチプレクサ18はフェーズロックループ1から供給された信号によってクロック動作されている。即ち、PCM入力信号のデータ部分を受信している間は、レジスタ12からのパラレル出力はデマルチプレクサ18によってデータ受信バッファ15に接続され、一方、PCM入力信号の音声部分を受信する場合には、レジスタ12からの出力はデマルチプレクサ18によって音声受信バッファ14に接続される。

上述したシステムに使用されている第2b図に示した同期信号に於いては、データバイトを構成する最初の3つのバイトの部分が高となっている。従って、この400Hzの周波数で15%の重畳係数を有する同期信号を使用してマルチプレクサ7とデマルチプレクサ18とを制御している。その制御方法は、各フレームに於ける最初の3つの

バイトの期間に於いてデータ情報が伝送又は受信され、且つ各フレームの残りの17バイトの期間に於いてアナログ情報が伝送又は受信される。フレーム当たり3個の8-ビットデータバイトが伝送される方式に於いては、データ受信バッファ15は3ワード×8ビットメモリである。同様に、1つのフレームに於いて17個の8-ビット音声バイトが伝送される方式に於いては、音声受信バッファ14は17ワード×8ビットメモリである。音声・データモードの期間に於いて、5ミリ秒のフレーム当たり17ワードを処理するシステムに於いては、エンコーダ8及びデコーダ9は6.8kHzで動作し、その場合のデジタル化した音声情報速度は54.4キロビット/秒である。

音声・データ信号の受信期間に於いて、第2a図に示した如く、各フレームは2.5ミリ秒の期間を有する。各フレームは20バイトを有しているので、各バイトは125マイクロ秒で伝送される。従って、125マイクロ秒毎に直列並列変換レジスタ12から8-ビットのバイトが出力される。

各データバイトは125マイクロ秒当たり1バイトの速度でデータバッファ15へクロック入力されるが、第2c図に示した如く、各フレームの期間に於いては3個のデータバイトのみが入力されるに過ぎない。同様に、各音声バイトは125マイクロ秒で音声バッファ14にシフト入力されるが、フレーム当たり17個の音声バイトがシフトされるに過ぎない。第2b図に示した同期信号は、局所的なスイッチング装置（不図示）から得られるものであり、400Hzの周波数を有し15%の重畳係数を有する。従って、この同期信号は、データバイトに相当する各フレームの最初の3個のバイトの期間に高であり、従って、それぞれの要求に応じ、マルチプレクサ7及びデマルチプレクサ18を選択的に音声バッファ4及び14並びにデータバッファ5及び15とインタフェースさせることを可能とする。マルチプレクサ7としては、例えばテキサス インストルメント、インコーポレイテッドによって製造販売されている製品番号SN 74157を2つ使用して構成することが

可能であり、一方デマルチプレクサ18としてはテキサス・インスツルメント、インコーポレイテッドによって製造されている製品番号SN74LS244を2つ使用して構成することが可能である。

第24図に示した如く、各音声バイト及びデータバイトは8ビットで構成されている。データバッファ15からは約833マイクロ秒/バイト、即ち3バイト/フレーム、の速度でデータがシフト出力され、第21図に示した如く一連の連続したデータ出力が構成される。この833マイクロ秒/バイトのクロック信号及び種々のパルファ、レジスタ、マルチプレクサ、デマルチプレクサ、エンコーダ、デコーダ、等を制御する為に使用されるその他全てのクロック信号は、公知の方法により、フェーズロックループ1によって発生される。第25図に示した如く、フェーズロックループは同期信号を基準信号として使用し、本システムの動作の為に正確なクロック信号を供給している。かく得られたデータ出力はインターフェース6を介してデータ受信器（不図示）に供給される。

音声情報は約147マイクロ秒/バイトの速度で伝送音声パルファ4にクロック入力される。音声パルファ4は17ワード×8ビットメモリである。一方、データ情報はデータ端子（不図示）で受信され、インターフェース6を介して約833マイクロ秒/バイトの割合でデータ伝送パルファ5に供給される。データ伝送パルファ5は3ワード×8ビットメモリである。音声情報及びデータ情報は、125マイクロ秒/バイトでもってパルファ4及びパルファ5からクロック出力される。各フレームに於いて最初の3バイトの間は、データがデータパルファ4からクロック出力されてマルチプレクサ7を介し並列直列変換レジスタ13に供給される。各フレームに於いて残りの17バイトの期間に於いては、音声情報が音声パルファ4からシフト出力されるマルチプレクサ7を介して並列直列変換レジスタ13に供給される。並列直列変換レジスタ13は8ビット幅のバイトを連続的な一連のシリアルな二進データに変換するものであり、それはスイッチインターフェースリード32

同様に、音声情報は約147マイクロ秒/バイト、即ち、17バイト/フレーム、の速度で音声パルファ14からシフト出力され、第26図に示した如く、一連の連続な音声情報がデコーダ9に供給される。このように音声情報が連続していると言うことは、音声情報伝送を高品質とする上で望ましいことである。一方、音声の根本抽出率が一定であるとした場合には、音声・データモードの期間に於いて、各フレームに於いて3個の音声バイトが3個のデータバイトで置換され、フレーム当たり3個の音声バイトが喪失する。従って、伝送された音声信号の質は著しく劣化されることとなる。

同様に、音声情報はエンコーダ8の入力30から入力され、音声・データモードの期間に於いて約147マイクロ秒/バイトの速度でサンプリングが行なわれる。この情報は並列並列変換レジスタ2に供給され、そこでエンコーダ8からのシリアルに並べられたビットを8ビット幅のパラレル情報に変換させる。レジスタ2からのパラレル音

に接続されており、そこからスタンダードな64キロビット/秒のPCMチャンネルを使用して所定箇所へ伝送される。

本発明は、更に、通信回路網に於いて各ステーションが音声モードにあるか、又は音声・データモードにある場合に、各ステーションの持ち合せを行なう方法を提供している。音声モードにある場合には、第1ステーションからその第1ステーションと交信を行なう各関連したステーションへ音声情報及びデータ情報を伝送するのに使用されるのと同一のPCM伝送チャンネルを使用して独特な可変又は可変周波数以下のトーン（又は、1組のトーン）が送り出され、全ての関連したステーションに対し音声・データモードに変換すべく信号を送る。音声・データモードにあるステーションの場合には、1つのステーションによってPCMチャンネルを介して同一の又は異なったトーンが送り出されて全ての関連したステーションに音声モードに変換すべく信号を与える。このようなトーン又は1組のトーンは、第1図に示した如く、

公知のトーン発生器100によって発生され、パルス符号変調器8に印加される。このトーンはトーンデコーダ101によって検知され、信号がインターフェース制御論理6に印加され、従って音声・データ結合器10は音声・データモードとされる。

一方、1個又は1組の持ち合せトーンを表わす特定の二進ワード又は1組のワードが成る1つのステーションによって送り出される音声・データモードから音声モードへ変換すべく信号が与えられる。これらのトーン信号は、音声・データ結合器10の中のリードオンリメモリ持ち合せ用ROM110の中にPCMの形態でストアされており、インターフェース制御論理6によって制御される必要に応じ並列直列変換レジスタ13に印加され音声信号として伝送される。同様に、独特のデータワード又は1組のワードが音声・データ結合器10に内蔵されたROM110内にストアされており、必要に応じデータ信号として送り出されて音声・データモードから音声モードへの変換を行な

うべく信号を与える。このデータ信号はインターフェース制御論理6でデコードされ、音声・データ結合器10を音声モードに変換させる。これらの二進持ち合せ信号も音声情報及びデータ情報を伝送する為に使われるのと同じPCMチャンネルを使用して伝送されるので、付加的な独立した別個の持ち合せ用チャンネルを設ける必要がない。尚、この二進持ち合せ信号は、それが使用されるシステムの根本抽出率と適合性を有するように選択されねばならない。例えば、二進持ち合せ信号が音声信号として伝送される場合には、該信号は音声信号と同じ形式（即ち、同じビット数、同じ伝送速度）を有するものでなければならない。同様に、二進持ち合せ信号がデータ信号として伝送される場合には、該信号はデータ信号と同じ形式を有するものでなければならない。

以上本発明の具体的構成例に付き詳細に説明したが、本発明はこれら具体例に限定されるべきものではなく、本発明の技術的範囲を逸脱することなしに種々の変形が可能であることは可成である

ことは勿論である。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明回路を示したブロック図、第2a図は単一の伝送フレームとデータ情報及び音声情報との関係を示した説明図、第2b図は本発明に使用される同期信号を示した説明図、第2c図は単一の伝送フレームとデータ情報及び音声情報との関係を示した別の説明図、第2d図は1個のデータバイトと1個の音声バイトとそれらの構成ビットとの関係を示した説明図、第2e図はパルス符号変調された音声情報を示した説明図、第2f図は連続したシリアルデータ情報を示した説明図、である。

#### (符号の説明)

- 1: フェーズロックループ
- 6: インターフェース制御論理
- 8: パルス符号変調器（エンコーダ）
- 9: デコーダ
- 10: 音声・データ結合器

40, 41, 42, 43: スイッチ

特許出願人 アメリカン  
マイクロシステムズ、  
インコーポレイテッド

代理人 小 橋 一 男

同 小 橋 正 明



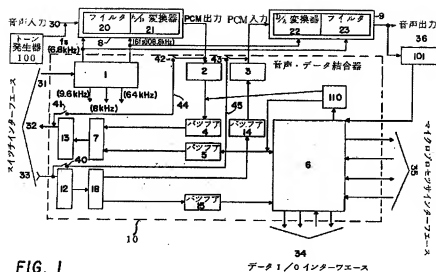


FIG. 1

データ I/O インターフェース

FIG. 2a

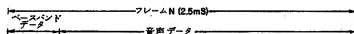


FIG. 2b

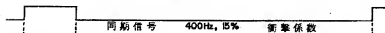


FIG. 2c

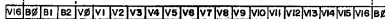


FIG. 2d



FIG. 2e

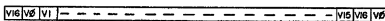


FIG. 2f

